

(別紙3)

文起第796号 - 1

平成30年8月28日

(施設名) 米子市美術館
(指定管理者) 一般財団法人米子市文化財団
(代表者名) 杉原 弘一郎 様

米子市長 伊木 隆司

平成29年度「米子市美術館」指定管理者業務評価書

施設名	米子市美術館
施設所管課	経済部文化観光局 文化振興課
指定管理者名	一般財団法人米子市文化財団
指定期間	平成23年4月1日 ~ 平成33年3月31日(7年目)

【モニタリング終了後の総評】

【施設所管課】

特別共催展「放浪の天才画家 山下清 展」は1万8千人の観覧者を記録。また、関連事業ワークショップとして企画した「ちぎって貼って顔を作ろう！」も、家族での参加が多数あった。特別企画展Ⅰ「ガラス工芸の美」では、本市に寄贈されたアールヌーヴォー期のガラス工芸全作品を展示し観覧無料にて開催、多くの方に観覧しやすい環境を提供した。常設展Ⅰ「大山の魅力」では、安綱をはじめとする郷土刀の特別展示も実施。その他、市展をはじめとする展覧会事業が、年度を通して円滑に行われたことは評価できる。また、収蔵品の管理も適切に行われており、全体として協定書及び事業計画書の基準を遵守し、その水準に沿う管理が実施されていた。

【第三者評価】

① 施設について

- ・照明も良く、使いやすくなった。
- ・保守点検や清掃・維持管理が適切に行われている。
- ・評価もB以上でよいと思われる。
- ・環境によく配慮されている。
- ・申し分なし。
- ・美術館に行くのが大好きで、いつもホッとさせていただいている。
- ・良好である。

- ・案内看板は設置してあるもののエレベーターの場所が分かりにくいという声を耳にする。
- ・多目的広場の有効利用はないものか。
- ・搬入・搬出時のバックヤードが利用者の側にも原因はあるのだろうが繁雑を極め作業が困難な時がある。

② 管理について

- ・少人数の職員で施設は綺麗に管理されている。
- ・人員配置や安全対策など管理について考えられている。
- ・評価も B 以上でよいと思われる。
- ・少ないスタッフでよく管理をされている。
- ・申し分なし。
- ・学芸員皆様の努力に本当に頭が下がる。
- ・努力されている。
- ・リニューアルオープンから 5 年が経過したが、管理・清掃共に十分に行われていると感じる。
- ・利用者が 1 万人以上の増加した背景と継続性。稼働率の目標レベル。

③ 事業について

- ・地元ゆかりの企画があり好ましい。
- ・特別展など、主だった展示は軒並み利用者・入場者数が増えるなど取り組み状況もよかったと思われる。
- ・特に問題なし。
- ・申し分なし。
- ・学芸員皆様の努力に本当に頭が下がる。
- ・企画展・特別共催展共に良い展覧会でスタッフの皆さんの苦勞と努力を感じる。
- ・夢のような話だが美術家協会展・ガラス工芸の美展が常設で見られるようになればと強く願う。
- ・前年度より入館者が増加するなど入館してみたいくなる事業が展開できたといえる。事業広報にも一層力が入っていたことも感じた。

【今後の業務改善方策等の特記事項】

【施設所管課】

創作交流広場や、市内に点在する野外彫刻の活用推進も含め、さらなる利用者拡大につながるような事業展開を図ること。

【第三者評価】

- ・ 特別、改善の必要なことはないと思われる。
- ・ 多くの人に観覧してほしい。
- ・ 1月から3月にかけて目玉になる事業が欲しいように感じた。また、中高の美術教育団体と共催しながらの事業展開も考えられる。
- ・ 町づくりの中で美術館も大事な位置にあり前向きな考え方が必要かと思う。
- ・ 「町づくり」の広い立場から「文化財団」でも考えてほしい。学芸員の方にも意見を出してほしい。
- ・ 施設・運営等については問題ないと感じるが備品（長机・彫刻台・展示ケース等）の充実を望む。
- ・ 展示室内がスポットライトの色のせいかわすびで無機的に感じる。もう少し落ち着いた色のものに出来ないものか。

平成29年度下期「米子市美術館」モニタリング評価表 [平成30年7月]

施設名	米子市美術館	
施設所管課	経済部文化観光局文化振興課	
指定管理者名	団体名	一般財団法人 米子市文化財団
	所在地	米子市末広町293番地
指定期間	平成23年4月1日 ~ 平成33年3月31日	
選定方法	公募・非公募	
施設の設置目的	美術に関する市民の知識及び教養の向上に資するため。	
主な実施事業	郷土にゆかりのある優れた作家の美術作品等及び近代以降の版画作品等収集、保管、研究及び展示。 市展、県展、特別共催展（年間1回）、常設展（年間2回）、特別企画展（年間2回）、共催展（年間2回）、ミュージアムスクール（教育普及事業・年間4回）等	

評価項目	評価基準	評価	特記事項
I 履行の確認（60点）			
1 施設全般の管理運営に関する業務			
(1)管理体制	施設の管理体制が明確になっており、基準に基づいた適切な人員配置がされているか 安全対策、危機管理体制などが十分に講じられているか	B	協定書に定められた、人員を配備し、管理体制も明確であった。また、マニュアル等も作成し、安全対策、危機管理体制、態勢を整え利用者、使用者の安全確保に努めているため。資料等確認、立入検査
(2)職員研修	職員の業務に必要な資質・能力の向上を図るための研修・教育が適切に行われたか	B	指定申請書に基づき、計画的に研修を受講している。資料等確認
(3)利用促進業務	利用者拡大のための利用促進業務が適切に行われたか	B	山下展及び市展は会期中無休とし他、ガラス工芸の美は寄贈の全作品を展示し入場無料とするなど観覧増加に努めた。常設展では特別展示として、刀の展示も行った。米子美術家協会 70年のあゆみでは、発足当初の会員作品も展示するなど地元の方の観覧増加に努めたため。資料等確認
2 利用者に関する業務			
(1)利用状況	利用者数・稼働率等は適切な水準であるか ※1	A	特別共催展（山下展）は1万8千人を越える入場者があったほか、市展、県展及び常設展などの入場者数も軒並み増加。年間総来館者は前年を1万1千人上

			回ったため。 台帳確認 補足資料 1
(2) 利用者の要望把握等	利用者の要望の把握及びその実現策は適切に行われているか	B	サポーター制度、委員会、アンケートの実施等により要望把握に努め、適切に実現策をおこなっている。 立入検査、資料等確認
3 保守点検並びに清掃等の業務			
(1) 保守点検業務	基準に基づき、保守点検が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か	B	協定書に基づき、適切に行われた。第三者による点検業務は電気設備、エレベーター、空調、自動制御設備機及び消防用設備機器の最小限度であった。 台帳確認、立入調査
(2) 清掃・維持業務	基準に基づき、清掃業務・維持管理が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か	A	協定書及び覚書に基づき、適切に実施した。敷地内の除草作業を行っており、館内では床面清掃を適宜実施し美化に努めている。 台帳確認
(3) 保安・警備業務	基準に基づき、保安・警備業務が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か	B	協定書に基づき業務を適切に実施している。 台帳確認、立入調査
(4) 修繕業務	基準に基づき、修繕業務が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か	B	展示室のクロス補修などを適切に行ったため。 台帳確認、立入調査
4 自主事業の実施に関する業務	事業計画書に沿った自主事業が適切に行われたか	B	自主事業計画書に沿って適切に実施された。山下展、米子美協展では関連事業も円滑に実施された。 資料確認
5 情報公開・個人情報に係る措置	情報公開・個人情報保護に係る措置は適切に行われたか	B	情報公開の実施体制、管理体制を整備し、個人情報保護方針を作成し個人情報を慎重に取り扱っている。 資料確認、立入調査
6 管理目標	施設の現状を正しく認識し、今後の在り方についての提案は具体化されているか	A	施設の現状を正確に把握した上で今後の事業を計画しているため。 資料確認
II サービスの質の評価 (25点)			
1 利用者満足度	利用者へのサービスの質を維持・向上させるための提案は具体化されているか 利用者アンケート等を実施し、その結果は妥当であるか	B	指定申請書に記載された提案は実施されている。各展覧会やミュージアムスクール等で利用者アンケートを実施し、回答は概ね利用者を満足させている内容

			であった。 資料等確認、立入調査
2 維持管理業務	日常清掃業務や衛生管理、備品などの設備の維持管理は適正に行われ、良好な状態で施設の利用が行われているか	B	協定書に基づき業務を適切に実施している。 立入調査
3 運営業務	事業運営について、サービス水準の向上のための創意工夫が見られるか。 利用許可などの利用者への接客・対応は適切であるか	B	指定申請書に基づき、サービス水準向上策を策定し実施し創意工夫のある内容であった。また、利用者への接遇、対応は適切であった。 資料等確認、立入調査
4 自主事業	実施された事業内容は、施設の設置目的に沿い、サービス水準の向上に寄与する質の高いものであるか	B	ミュージアムスクールとして学芸員レクチャーを行うなど美術への興味を引くものであった。 資料等確認
5 施設の効用	施設の効用を最大限に発揮し、設置目的の達成に資することができる管理運営内容であったか	B	ミュージアムスクール、出前講座等の様々なサービスを提案、実施し、芸術鑑賞の機会を提供するだけでなく、美術に対する市民の教養等の向上にも取り組み、常に新しい試みを発案実施している。 資料等確認

Ⅲ サービスの安定性の評価（15点）

1 事業収支	指定管理業務の事業収支は妥当であるか ※2	B	事業収支は適切な水準であった。 補足資料2
2 経営状況	指定管理業務の経営状況分析指標の結果は妥当であるか ※3	B	経営状況分析指標は適切であった。 補足資料3
3 団体等の経営状況（年度ごと）	団体の経営状況分析指標の結果は妥当であるか ※4	B	団体の経営状況分析指標の結果は妥当であった。

<p>【総評（所管課評価）】</p> <p>特別共催展「山下清展」、特別企画展「ガラス工芸の美」、「米子美術家協会 70年のあゆみ」を開催したほか、常設展、シンディー望月展などを実施。いずれの展覧会事業も円滑に行われ、教育普及事業もミュージアムスクール、ワークショップなどの様々な展覧会関連事業を行うなど、事業内容も工夫されており、円滑に管理運営を行っている。</p>	<p>合計点 (66) 点 / (100) 点 × 100 = (66) 平均点 (3.3) 点</p>
--	--

※施設の性格や設置目的により、評価項目は追加、変更できる。

※評価区分 A（優良）＝協定書等の基準を遵守し、その水準よりも優れた管理内容である。（5点）

B（良好）＝協定書等の基準を遵守し、その水準に概ね沿った管理内容である。（3点）

C（課題含）＝協定書等の基準を遵守しているが、管理内容の一部に課題がある。（1点）

D（要改善）＝協定書等の基準を遵守しておらず、改善の必要な管理内容である。（0点）

※特記事項欄は評価を行った確認方法（例：立入調査、台帳確認、資料等確認）と当該評価を行った理由を記載する。

※総評欄は、事業計画書等との整合性を検証し、評価、業務の改善方策等を記入する。

【補足資料】

※1 利用状況

項目	本年度〔平成29年4 ～平成30年3月〕A	前年度〔平成28年4 ～平成29年3月〕B	対比 A-B、A/B		対比が±20%を超える場 合は増減理由を記載
開館日数(注1)	314(246)	315(256)	-1	99.68(%)	
施設利用者数	76,734	65,721	11,013	116.75(%)	
施設稼働率(注2)	78.3%	81.2%	-2.9	96.42(%)	
事業開催数	13	14	-1	92.85(%)	

(注1) ()の数字は展示日数

(注2) 施設稼働率 展示日数/開館日数 により算出

※2 事業収支

(1) 収入

項目	本年度〔平成29年4 ～平成30年3月〕A	前年度〔平成28年4 ～平成29年3月〕B	対比 A-B、A/B		対比が±20%を超える場 合は増減理由を記載
指定管理料	58,048,000	49,596,000	8,452,000	117.04(%)	
使用料収入	3,560,055	3,770,544	-210,489	94.41(%)	
事業収入	4,927,901	3,647,031	1,280,870	135.12(%)	観覧者増加の為
補助金等	500,000	0	500,000		
雑収入	244,575	334,119	-89,544	73.19(%)	図録等の売上減の為
負担金	0	0	0		
合計	67,280,531	57,347,694	9,932,837	117.32(%)	

(2) 支出

項目	本年度〔平成29年4 ～平成30年3月〕A	前年度〔平成28年4 ～平成29年3月〕B	対比 A-B、A/B		対比が±20%を超える場 合は増減理由を記載
人件費	28,556,940	27,729,745	827,195	102.98(%)	
施設管理費	17,635,340	14,724,734	2,910,606	119.76(%)	
事業費	20,112,377	9,263,292	10,849,085	217.11(%)	特別共催展が昨年減っていた為
委託費	4,368,600	4,400,200	-31,600	99.28(%)	
事務局経費	3,379,859	3,102,000	277,859	108.95(%)	
合計	74,053,116	59,219,971	14,833,145	125.04(%)	

※3 経営状況分析指標

項目	本年度〔平成29年4 ～平成30年3月〕A	前年度〔平成28年4 ～平成29年3月〕B	対比 A-B、A/B		備 考
① 事業収支	-6,772,585	-1,872,277	-4,900,308		
② 利用料金比率	5.2%	6.5%	-1.3	80.00(%)	
③ 人件費比率	38.5%	46.8%	-8.3	82.26(%)	
④ 外部委託費比率	5.8%	7.4%	-1.6	78.37(%)	

⑤ 利用者当たり管理コスト	965.0	1,678.7	-713.7	57.48 (%)	
⑥利用者当たり自治体負担コスト	756.4	1,405.9	-649.5	53.80 (%)	

①事業収支：(収入－支出)

事業全体が黒字で施設の管理運営ができていようか確認する。赤字の場合は管理継続性の面での課題を解決し、黒字化のための方策を検討する。

②利用料金比率：(利用料金収入/収入)

収入に占める利用料金の割合。指定管理者の収入源がどこにあり、それが安定したものであるかを確認する。

③人件費比率：(人件費/支出)

支出に占める人件費の割合。支出の中で人件費が減らされすぎていないか、逆に費用がかかりすぎていないかを確認する。

④外部委託比率：(外部委託費合計/支出)

支出に占める外部委託費の割合。外部委託に過度にシフトしていないかを確認する。

⑤利用者当たり管理コスト：(支出/延べ利用者数)

利用者1人当たりにかかる費用。前年度や事業計画との比較、類似施設との比較により施設の効率性を確認する。

⑥利用者当たり自治体負担コスト：(指定管理料/延べ利用者数)

利用者1人当たりにかかる自治体の費用。前年度や事業計画との比較、類似施設との比較により施設の効率性を確認する。

※4 団体等の経営状況 (年度毎下期に実施し、上期では行いません。)

項目	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	備考
①自己資本比率	54.9%	44.1%	57.7%	51.0%	55.1%	
②流動比率	230.7%	182.1%	304.5%	238.4%	281.4%	
③固定長期適合率	14.2%	15.5%	15.3%	15.9%	15.6%	
④総資産経常利益率	-6.3%	-1.8%	-6.5%	7.6%	2.3%	
評価	(以上の指標を参考に評価する。)					

※貸借対照表と損益計算書を基に計算。太枠内に今年度の数値を記載し、左側に過去4年分を記載。

①自己資本比率

総資産(資産合計)に占める自己資本(純資産合計)の割合を示した指標。どれだけ借金に頼らず経営をしているかを示す。比率が高いほど借金(負債合計)に頼る割合が低く、経営が安定していることを示す。一般的には、70%以上なら理想企業、40%以上なら倒産しにくいとされている。

$$\text{自己資本比率 (\%)} = \text{自己資本} \div \text{総資本} \times 100 \quad \text{【例】 } 800 \div 2,000 \times 100 = 40.0\%$$

②流動比率

団体の短期的な支払い能力を示す指標。1年以内に現金化できる試算を「流動資産」、1年以内に支払いを要する負債を「流動負債」と言い、「すぐに準備できるお金」と「すぐに返さないといけないお金」のバランスを比較する。流動資産(すぐに準備できるお金)の方が多いほど、支払い能力が高いことを示す。100%以上であれば問題ない。100%未満であれば資金繰りが苦しいとされる。

$$\text{流動比率 (\%)} = \text{流動資産} \div \text{流動負債} \times 100 \quad \text{【例】 } 1,100 \div 700 \times 100 = 157.1\%$$

③固定長期適合率

固定資産をどの程度、自己資本(純資産合計)と固定負債で賄っているかを示す指標。土地や建物など、この先1年以上換金できない、または換金しない固定資産を返済義務のない自前の資金である自己資本(純資産合計)と長期で調達したお金(固定負債)でどれだけ賄えるかを見る。100%未満であれば問題ないが、100%以上の場合は固定資産の維持調達について流動負債にも依存していることを示すことから、資金繰りが苦しいと考えられるとされる。

固定長期適合率(%) = 固定資産 ÷ (固定負債 + 自己資本) × 100 【例】 900 ÷ (500 + 800) × 100 = 69.2%

④ 総資本経常利益率

団体の総合的な収益力を示す指標。団体の総資産（資産合計）に対して、どれだけの経常利益を稼ぎ出しているかを示す。比率が高いほど資本を効率的に運用し、収益を上げている。

総資本経常利益率 = 経常利益 ÷ 総資本 × 100 【例】 200 ÷ 2,000 × 100 = 10.0%

■ 貸借対照表 (例)

【資産の部】	【負債の部】
流動資産	流動負債
現金及び預金 400	買掛金 400
受取手形 500	短期借入金 300
有価証券 200	流動負債合計 700
流動資産合計 1,100	固定負債
固定資産	社債 300
建物及び構築物 200	退職給付引当金 200
土地 500	固定負債合計 500
投資有価証券 200	負債合計 1,200
固定資産合計 900	【純資産の部】
	資本金 600
	利益剰余金 200
	純資産合計 800
資産合計 2,000	負債純資産合計 2,000

■ 損益計算書 (例)

売上高	3,000
売上原価	1,200
売上総利益	1,800
販売費及び一般管理費	1,200
広告	700
人件費	500
営業利益	600
営業外収益	200
受取利息	200
その他	0
営業外費用	600
支払利息	200
社債利息	0
経常利益	200
特別利益	100
外国為替	100
特別損失	50
固定資産売却損	50
税引前当期純利益	250
法人税・住民税等	50
当期純利益	200

5 利用者からの苦情の内容とそれに対する市・指定管理者の対応や市から指定管理者への指導状況

特になし

6 利用者アンケートの結果

(山下 清 展) 名前はよく知っていてイメージもありましたが、初めて作品が見られて本当に良かった。単に几帳面だけでなく、構図・色彩・配色なども素晴らしい作品に接することができ、優れた芸術家であることを知ることができた。ヨーロッパ水彩絵の巻はどれも素晴らしい。清の「ことば」は面白いと同時に哲学的なところもあり感銘した。

(市展) 素晴らしい作品の数々が無料でそれも近くで見させていただけありがたいことです。受付をはじめ、フロアスタッフは素晴らしい。

(ガラス工芸の美) どれも驚くばかり素敵でした。ガレの透明感、ドーム兄弟の作品にただ感動するばかり。心穏やかになりました。すべて素敵でした。米子市出身の井上ご夫婦のおかげでこうして米子で観ることができ幸せに感じています。テレビ等でしか見ることの出来なかったガレの作品、本物は素晴らしい。期待以上の作品と数でした。何回も見たい。

（常設展Ⅰ）安綱は一生に一度は見たかったので大変満足。今後是非大山に関する展示をしてください。平安時代の刀が今も綺麗に観られることが貴重。

（常設展Ⅱ）往年の郷土の先輩方の絵は、素晴らしい一言。冒頭の挨拶文にひかれ、ゆっくり鑑賞させていただいた。慌ただしい日常のなか別の空間にいました。

（米子美術家協会 70年のあゆみ）気持ちが落ち着いてホッとした。力が湧いてくるよう。懐かしい先生方の名前、作品に久々に出逢っているような喜びを覚えました。とても嬉しく鑑賞できた。